のGU のとりひとりをつなぐ・むすぶ
に大阪、そして通天閣にひとかたならぬ愛情を注いで活動されてきました。 「大阪を盛り上げるためには、No.1のキタ以上にNo.2の新世界ががんばらないと、大阪らいしさや懐かしさ、昭和の匂いが残るこのまちをもっと元気にしていきたいですね」。 かつては眺望で売っていた通天閣でしたが、西上さんは大胆な方向転換を行いました。 「通天閣は、もはや高さで売る時代ではないんです。"日本一面白いタワー"つまり、"大阪



# ·LinkA 追手門学院大学 「追大つだけのことを開金」 紳士・淑女録

# 追大生だったからこそ、今の自分がいるのです。

運命的な出会いがあったり、画期的な気づきがあったり…。追大生にとって、キャンパスで過ごす時間は、未来の自分を育てるための大切な糧となります。 今回は、個性的な4人のOB·OGにご登場いただいて、キャンパスライフの思い出や将来の夢についてお伺いしました。



# 好奇心の赴くままに軽快に行動する。 言葉と音楽を通して、人とは何かを伝える 川柳人は、コミュニケーションの達人。

「入学してから1年間は、あまり学校へ行かずに、マンガ家のアシスタントをしていたんで す。だから、残りの3年間で4年分の単位を取り、なんとかギリギリ卒業できました」と笑 う小林さん。彼を奮い立たせたのは、ゼミの福井南海男先生の厳しい言葉でした。

「僕の甘さを見抜いた先生は"人生をナメているのか!"と一喝されたんです。そこで"ハ ッ!"と気がついたんですね。これは真剣に生きねばと。結局は、叱ってくださる先達のお かげで、人生を踏み外さずにここまで来れたんだと思っています」。

学生時代は、文芸部に所属。寺山修司が好きで、戯曲や短歌などの創作に励んだといいます。 また、当時NHKが放映していた『あなたのメロディー』という音楽公募番組に作曲者とし て応募して、見事採用となり、楽曲を夏木マリさんに歌ってもらうという経験もしました。 学生時代に育んだ文芸への思いは、35歳にして芽吹きます。それが川柳との出会い。

「合成樹脂関係の会社に就職して営業をしていたんですが、得意先の社長夫人が川柳をや っておられて、興味ありげな顔をしていたら川柳誌をくださいました。後ろの方に投句用 紙があったので句を出してみたら、主宰者の時実新子さんから"入会しませんか"とお誘 いをいただきました」と小林さん。時実さんは、『有夫恋』というベストセラーの句集があ る川柳のトップランナー。小林さんは、そんな人の直弟子となったのです。

以来、自ら川柳をつくるだけでなく、時実さんの会員誌『川柳大学』の選者や執筆を担当。 週刊朝日の川柳コーナーで大賞を受賞するなど、川柳界で活躍します。

「川柳はコトに寄せて人を詠みます。人に関心がないとつくれません。好きでも嫌いでも いいのです。人に無関心にならない限り。いろんな人と出会って、遊び、学んだ学生時代に、 人への関心が育ったんでしょうね。仕事で辛いことがあっても、人への関心が心を逞しく してくれたように感じています」。

現在、小林さんは、勤めていた会社を退職し、時実さんの遺志を継いで『現代川柳研究会』 の会員として川柳の普及に励んでいます。まだまだ知られていない川柳をもっとたくさ んの人に楽しんでもらいたいと、川柳講座を開いたりしているのです。同時に音楽活動も。 童謡コンサートの企画やコーラスの編曲、飲食店のテーマソング作曲、自らのライブなど もしています。好奇心の赴くままに、軽快なフットワークで人生を謳歌する小林さん。4年 間のキャンパスライフで育まれた自由な心が、彼の未来を後押ししているようです。



小林 康浩 さん 1980年卒業(11期生) 経済学部 経済学科 ●NPO法人童謡館東京 理事 ●作曲家·編曲家 abok-78214@suty zag ne in

f 小林康浩 検索



#### 教えてもらったのは挑戦する心。 追大との運命的な出会いが 私を追大初の弁護士へと導いてくれた。

「追大を選んだのは、実は空手をするためだったんです。空手の先生が追大出身の方で、大 学で空手を続けるなら追大に行こうと思ったのがきっかけでした。学科を選ぶ時、"何を するのか一番よくわからないところに進もう"ということで心理学科を選びました」と手 塚さんは振り返ります。そんな動機だったので、学部生の4年間は、空手とバイトに明け暮 れ、"なんとなく…"毎日を過ごしていました。

そんな手塚さんの意識を変えたのが、大学院の恩師でした。

「高名な社会心理学者の田中國夫先生の研究室に入ったのですが、ここでの経験が私の人 生を変えたといっても過言ではありません。まず、心理学の本当の面白さを教えていただ きました。先生は、単なる心理学を超えて、社会学や文化人類学、哲学などの領域にまで研 究対象を広げ、"人間に関わるすべて"を解き明かそうとしているように感じられました。 結局、私は、その広さ、深さに挫折してしまいましたが(笑)、視野は大きく広がりました」。 田中先生にかわいがられた手塚さんは、大学院4年目には、先生と先生の風様といっしょ に3人でアメリカを施します いわげ 先生からの卒業旅行のプレゼントでした

そんな中、再び手塚さんに転機が訪れます。当時、交際中だった現在の奥さん(研究室の後 輩)の妹から司法試験受験の誘いを受けたのです。彼女が言うには"これからの弁護士は、 法律の勉強だけではなく、広く社会での経験を積んだ人材が求められている"と。手塚さ んは、1年間考えて、ついに司法試験受験を決心します。2003年、33歳でした。

この年、手塚さんはプロポーズします。"司法試験を受けるから、結婚して支えてほしい" と。臨床心理士になっていた彼女は快諾し、二人三脚の司法試験挑戦がはじまりました。 2年間の司法試験塾での学習の後、3年ほどの自習期間を経て、2008年の秋、ついに司法試 験に合格しました。その間、2007年には、父となっていました。

「きっと追大に来ていなかったら、弁護士にはなっていなかったでしょうね。空手をする ために追大に入学し、大学院で田中先生と出会って視野が広がり、その研究室で妻に出 会ったからこそ弁護士への道が拓けたのだと考えています」。

2013年に独立して事務所を構えた手塚さん。これからは、心理学を活かした弁護士の道 を模索していきたいと考えています。"やろうと思えばできる!"ということを教えてく れた追大での経験を活かして、新しい弁護士のスタイルを構築されることでしょう。



手塚 大輔 さん 1993年卒業(24期生) 文学部心理学科(現・心理学部) 1997年大学院(文学研究科心理学専攻修士課程)修了 弁護士 大阪上本町法律事務所 tetsuka@osakauehonmachi-law.ip



#### 気づきをいただいた恩師を目標に 社会に貢献できる公認会計士の理想像を これからの人たちに継いでいきたい。

「とにかく僕は落第生でしたから…」笑いながら、追大第一号の公認会計士である川上さ んは、学生時代の思い出やこれからの夢を語ってくださいました。

「父は公認会計士でしたが、僕自身あまり興味が持てませんでした。勉強もあまり好きで はなかったので、会計士になるなんて夢にも思っていませんでした。」。

そんな川上さんの意識に大変革を起こす人が現れました。当時、経済学部の教授をされて いた中谷洋一先生です。先生は近畿会計士会の会長を務められた会計士の第一人者。中谷 ゼミに入った川上さんは、日々目からウロコが落ちるのを実感します。

「先生は、講義の中で、たくさんの実務の話をしてくださいました。その中で強く印象に残 ったのが、つぶれた会社の再生の話でした。僕の中に"会計士の仕事は、財務を見るだけで はなく、企業に関わる社員や家族、取引先などすべてのステークホルダーを支援し守るこ と。つまり、世の中で役に立つこと"という意識が芽生え、はじめて"会計士になりたい"と 思いました。それは、結局、父の仕事を継ぐことにもつながりました」。

中谷先生に"気づき"をもらった川上さんは、卒業後、本格的に会計士を目指し、4年間で3 千時間超という、これまで経験したことがない勉強をして、ついに合格率5%という超難 関の公認会計士試験に合格。そして、中谷会計事務所に就職することができました。

「中谷会計事務所での12年間の実務は、僕に"会計士とは何か"を徹底的に身につけさせて くれました。今の僕の生涯の目標は"いかに中谷先生に近づけるか"です」。

現在、川上さんは、追大内で『会計人会』を組織する活動を進めています。その目的は、学生 に会計士の魅力を伝えること、追大卒の経営者のお役に立つこと、追大出身の会計士に役 割を啓蒙すること。今年度内に1コマの講義ができないかと模索中です。

「会計や税務、監査を行うだけでなく、経営の問題点を明らかにし、その改善策を提案・実 施できるような会計士を育てたいものです。企業のすべてのステークホルダーを幸せに できるような会計士です。そんな会計士なら、必ず社会に貢献できるはず。そんな会計士 を育てていくことが、中谷先生への恩返しになると思います」。

目的意識があれば、やる気が生まれる。やる気があれば、どんな困難なことでも達成できる。 中谷先生からいただいた"世の中で役に立つ仕事をする"という川上さんの目的は、これ から失む、どんどん達成されていくことでしょう。



川上 章夫 さん (回数 精谷) 経済学部 経営学科 ●公認会計士 ●株式会社パルコンサルツ http://www.pal-web.co.ip

f 川上意夫 検索



### 五輪メダリストの次なる夢は シンクロナイズドスイミングの "楽しさ" を シニアや障がいのある人に広めること。

「考えてみたら、私って人生の半分は追大で過ごしているんですね!」大きな瞳をいっそ う見開いて巽さんは感慨深げに語りはじめました。

「学生時代、職員時代、現在の教員時代の18年間を通じて、本当に追大にはお世話になって きました。だから、誰よりも追大のことを知っているつもりです」。異さんは、3歳で水泳を はじめて、7歳でシンクロナイズドスイミングに転向。追大3回生の2000年にオリンピッ クシドニー大会のシンクロ代表に選ばれて参加し、銀メダルを獲得しました。続く2004年、 追大職員だった時のアテネ大会では代表のチームリーダーを務め、見事連続で銀メダル を獲りました。あの井村コーチの下、日々、想像を絶する練習に明け暮れた成果でした。彼 女にとってシンクロは、あくまでも厳しい競技であり、楽しむためのものではなかったと いいます。辛い練習の日々の中、彼女を支えていたのが追大の仲間や先生たちでした。 2013年、彼女は追大職員を辞して、大阪体育大学の大学院へ進みます。

「昔から指導者になるのが夢だったんです。きっと現場が肌に合っているんでしょうね」。 そして、晴れて追大の教員に。現在は講師としてコーチング論やスポーツ概論の講義、体 育の実技などを行っています。

現在、彼女が注力しているのは、研究テーマでもある『マスターズ・シンクロ』と『障がい者 シンクロ』。職員時代にあるシンクロコーチからマスターズ・シンクロの指導の手伝いを 頼まれて出かけたところ、練習する人たちの笑顔の輝きに驚嘆したそうです。

「あー、シンクロって、本当はこんなに楽しいものなんだ!ということに、初めて気がつき ました。シンクロって、人を笑顔にする力があるんだということを実感したんです」。 以来、彼女はマスターズ・シンクロ・クラブのヘッドコーチを務めています。

「最高齢の方は85歳。シンクロ歴30年という方もいらっしゃいます。ほとんど私の人生と 変わらないキャリアなんです。毎回、いろんなことを教えてもらってます」。

今後は、障がいのある人のシンクロにも関わっていきたいと考えている巽さん。東京パラ リンピックでのデモンストレーション実施を実現するのが夢だといいます。いつの日か、 "シンクロを生涯スポーツに"という思いを胸に、彼女の奮闘が続いています。

人生の半分以上を過ごしてきた追大については、誰よりも追大生気質を理解している自 分だからこそできる指導をして、世の中に役立つ人材を育てていきたいと考えています。



2002年卒業(33期生) 経済学部 国際経済学科 ◉五輪銀メダリスト ●追手門学院大学



**交遊誌・ホームページ掲載希望者募集中(掲載対象)**国内外を問わず、追大卒業生で、校友会会員であること (ジャンル) ○グルメ(飲食・お菓子)○旅行(ホテル・旅館・旅行代理店)○住まい(不動産・住宅・相談)○医療・福祉・介 護・保険○学校・予備校・塾・カルチャースクール○美容院・エステサロン○卸・製造など (掲載料)無料 (ご注意)内容などにより校友会の承認が得られない場合、掲載いたしかねる場合もあります。予めこ了承ください。また、届け出 の連絡が取れない場合(例えば電話が通じないなど)、閉店などが認められた場合には掲載を中止させていただきます。(掲載申し込み)校友会ホームページからの申し込みに限りますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

# 登録募集中!! 「誰どこ何してるシステム」

http://otemon.org./daredoko/

「誰どこ何してるシステム」とは、追手門学院大学 校友会が運営する会社やお店を幅広くご紹介して いるサイトです。ご近所の校友のお店や会社など も見つけていただけます。追手門学院大学の校友

だけへの特典が付くという 嬉しい情報もあります。 塔棒 どしどしご登録をお 願いします。



# -編集後記-

この度、創刊号を発刊する運びとなりました。ご登場いた だいた方々には、忙しい中にもかかわらず対応していた だいて感謝しています。追手門学院大学には個性にあふれ、 利発な方々が多いことに驚愕しています。様々な分野で

利発な方々が多いことに驚情しています。様々な分野で 極め、社会貢献をいとわず成長する自分を楽しみに日々 過ごされている姿がまぶしく感じました。 大学で学んだ時間を大切に、そして、何よりも追手門学院 大学に対しての思いの強さを感じる事が出来ました。こ の大学を測る物差しは何なのでしょう?偏差値?スポー ツ?社会有為な人材として真っ当にまじめに社会に貢献 するという人材偏差値ではどこにも負けない大学だと思います。このLinkA、様々な分野で活躍されている方々を これからも取り上げてまいります。ご期待ください! (追大つながって委員会事務局・小林武則)



発行・編集:追手門学院大学校友会**「追大つなかって要員会」** 〒567-8502 大阪府茨木市西安蔵2-1-15 TEL.072-643-6135 FAX.072-643-6099 URL http://ogu/koyukai.com E-maii info@ogu-koyukai.com 発行日: 2016年11月1日